

評価調書(県総合評価調書)

【評価の基準】

- (1)多様化・高度化する県民ニーズや社会経済情勢等の変化への的確な対応
- (2)厳しい財政状況を踏まえた簡素で効率的な事業展開
- (3)県の財政的、人的関与の適正化による主体的・機動的な団体運営
- (4)役職員体制の適正化による自律的かつ効率的な組織運営
- (5)積極的な情報提供の推進による団体に対する県民の理解と信頼の促進

1. 評価結果(個別観点)

観 点	評価内容	評 価																		
団体のあり方	<p>民間事業者による管理型最終処分場の設置については、周辺住民等から反対を受けることが多く、新規設置が困難な状況がある。</p> <p>当該団体は、産業廃棄物の適正処理を推進するため、公共関与による最終処分場の建設と運営を目的として、県、市町村及び関係業界からの出捐により設立され、同団体が運営する「クリーンパークいずも」は、県内唯一の公共関与と最終処分場である。</p> <p>県内で委託契約により最終処分(埋立て)される管理型産業廃棄物の多くを受入れ、主要産業の一つである鋳鉄鋳物関連の占める搬入割合も高く、県としても廃棄物の適正処理のみでなく、地域産業の振興を図る上でも重要な施設であると認識している。</p> <p>当該施設の受入れがなくなると、県外への運搬コストや割合となる処理費用の負担が生じ、県内事業者の経営への影響が懸念される。</p> <p>そのため、当該財団の果たす役割は、ますます重要となっている。</p>	A																		
組織運営	<p>令和6年度は、意思決定機関である理事会を4回、チェック機能を有する評議員会を1回開催し、適正な組織運営が図られている。</p> <p>また、地元代表者を含めた安全管理委員会を複数回開催し、環境測定結果や受入状況を報告するなど、地元との信頼関係の構築・維持に努めている。</p> <p>大雨等の警報が発令された際には、速やかに施設の点検を行うなど、安全性の確保に万全を期している。</p> <p>毎年、ISO14001の活動を通して環境への負荷を軽減しつつ、コスト削減等にも努めている。また、県が実施する環境保全活動へも参加している。</p>	A																		
事業実績	<p>県の人的関与について</p> <p>施設の設置・管理状況を把握するため、評議員会(環境生活部長が評議員として参画)等を通じて関与を行っている。</p> <p>産業廃棄物の搬入量及び事業収益について、ほぼ当初の計画どおりの結果となった。前年度比では、搬入量は減となったが、事業収益は単価の高い廃棄物の受入れが増えたことで増収となっている。</p> <p>・搬入量 (当初)530百トﾝ (実績)531百トﾝ 100.2%(実績/当初) ・事業収益(当初)730百万円 (実績)721百万円 98.8%(実績/当初) ※(R5実績)716百万円</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実 績 量</td> <td>709百トﾝ</td> <td>643百トﾝ</td> <td>479百トﾝ</td> <td>539百トﾝ</td> <td>531百トﾝ</td> </tr> <tr> <td>前年度比</td> <td>88.6%</td> <td>90.8%</td> <td>74.5%</td> <td>112.5%</td> <td>98.5%</td> </tr> </tbody> </table>	年 度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	実 績 量	709百トﾝ	643百トﾝ	479百トﾝ	539百トﾝ	531百トﾝ	前年度比	88.6%	90.8%	74.5%	112.5%	98.5%	A
年 度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度															
実 績 量	709百トﾝ	643百トﾝ	479百トﾝ	539百トﾝ	531百トﾝ															
前年度比	88.6%	90.8%	74.5%	112.5%	98.5%															
財務内容	<p>管理型第3期処分場の運用を行いつつ、収入確保と経費削減に努めた。</p> <p>第1期処分場建設に係る長期借入金については計画どおり償還しており、令和6年度末の残額は211百万円となったが、今後も元金の半分と利息部分を自己負担により確保しなければならない。また、管理型第3期処分場の整備(H26～H28年度)に伴い新たな長期借入金も生じており、令和6年度末の残高は616百万円となっている。そのため、平成29年4月及び令和3年6月に料金改定を行うなどにより償還財源を確保するとともに廃棄物のリサイクルや減量化の推進に取り組んでいる。</p> <p>一方で、将来の資金需要に備えて令和2年度より開始した新たな積立金の積み増しを行ったほか、第4期処分場整備のため、令和4年度より更に新たな積立金も開始した。</p> <p>今後も中長期的に安定した経営・運営の継続が必要である。</p>	B																		
	<p>県の財政的関与について</p> <p>公共関与と最終処分場の経営安定化を図るため、第1期処分場建設に係る金融機関からの借入金の償還に対して県補助金(元金の約1/2)を交付している。</p>																			

評価の目安 A:良好である B:ほぼ良好である C:やや課題がある D:課題が多い

2. 総合評価

	課題の内容等	今後の方向性	評価コメント
団体の経営評価報告書における総合評価について	<ul style="list-style-type: none"> ・運営基盤の強化 ・最終処分場の適正な運営 ・公益財団法人の運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な運営及び円滑な業務推進体制の確保 ・収支計画に基づく適切な経営管理 ・クリーンパークいずもの適正な廃止を意識した管理型第4期最終処分場建設に向けた計画遂行 ・コンプライアンスの徹底 	<p>公益法人として持続可能な取り組みをしていくためには、引き続き経営改善を図るとともに、将来にわたって経営の安定化を図るための具体的方策を検討する必要がある。</p>
総合コメント	<p>当該団体が運営する「クリーンパークいずも」は、県内で委託により最終処分(埋立て)される管理型産業廃棄物の多くを受入れ、県内の残容量全体の大半を占める重要な施設であり、処分場を造成する当初工事の際、事業中途での法改正や法面の崩落等により事業費が増加したことから、県はセンターの経営安定化を図るため、金融機関からの長期借入金の償還金に対して、元金の約1/2を補助している。</p> <p>団体においては、平成29年4月及び令和3年6月に料金改定を行ったほか、中長期的な資金需要に対応するための基金を創設し積み増しをするなど、様々な手法により更なる経営の安定化に取り組んでいる。</p> <p>一方、現在運用中の管理型第3期処分場は令和10年度頃には満杯となる見込みである。県内での産業廃棄物の適正処理及び産業振興を図る上で、管理型第4期処分場が必要であり、現在、整備に向けて計画を進めている。</p> <p>今後も中長期的な経営の安定を図るため、引き続き収支計画に見合った定期的な処理料金の見直しや各手法の効果検証、継続・強化・見直しをしていくことが必要である。</p>		